



インストール後

- ・インストール後のタスクの概要 (1 ページ)
- ・インストール後の VLAN の追加 (26 ページ)

インストール後のタスクの概要

クラスタの設定が正常に完了したら、次の追加のインストール後タスクを実行して、クラスタが VM に対応できる状態になっていることを確認します。

タスク	参照先
最初のデータストアの作成	最初のデータストアを作成する (2 ページ)
ライブ移行と VM ネットワークの静的 IP アドレスを割り当てます	ライブ移行と VM ネットワークの静的 IP アドレスの設定 (4 ページ)
(オプション) 制限された委任	(任意) インストール後の制約付き委任 (4 ページ)
ローカルのデフォルト パスの設定	ローカルのデフォルト パスを設定する (5 ページ)
ファイル共有補助の設定	ファイル共有ウィットネスの構成 (6 ページ)
Hyper-V ホストの Windows バージョンの確認	Hyper-V ホストの Windows バージョンの確認 (13 ページ)
フェールオーバークラスタ マネージャの検証	
Hyper-V クラスタへの VM の展開	Hyper-V クラスタへの VM の展開 (15 ページ)
SCVMM への HyperFlex 共有の設定	SCVMM への HyperFlex 共有の設定 (22 ページ)

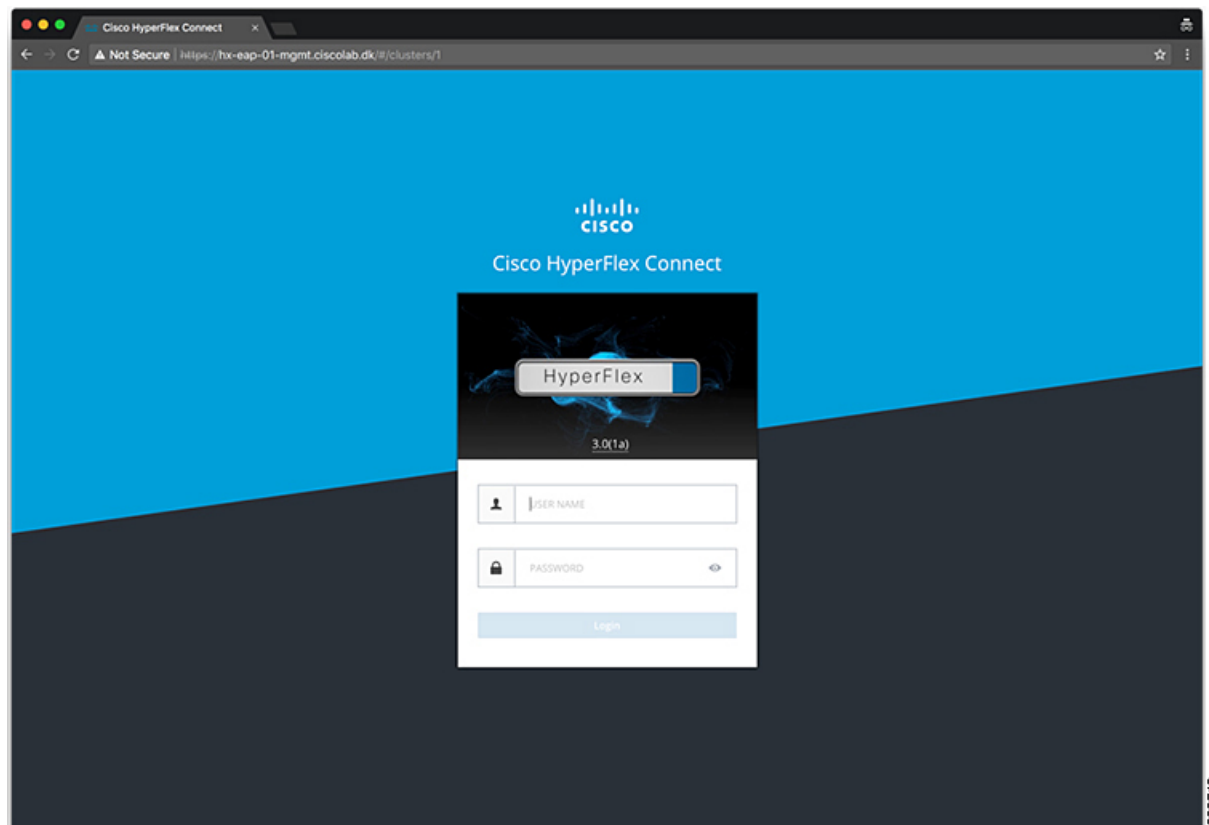
タスク	参照先
Windows Defender の再有効化	Windows Defender の再有効化 (25 ページ)
スタンドアロン Hyper-v ホストと HX Hyper-v ホスト間の VM 移行。	ホスト間の VM の移行 (25 ページ)

最初のデータストアを作成する

クラスタの使用を開始する前に、データストアを作成する必要があります。データストアは、HX Connect UI で作成できます。

手順

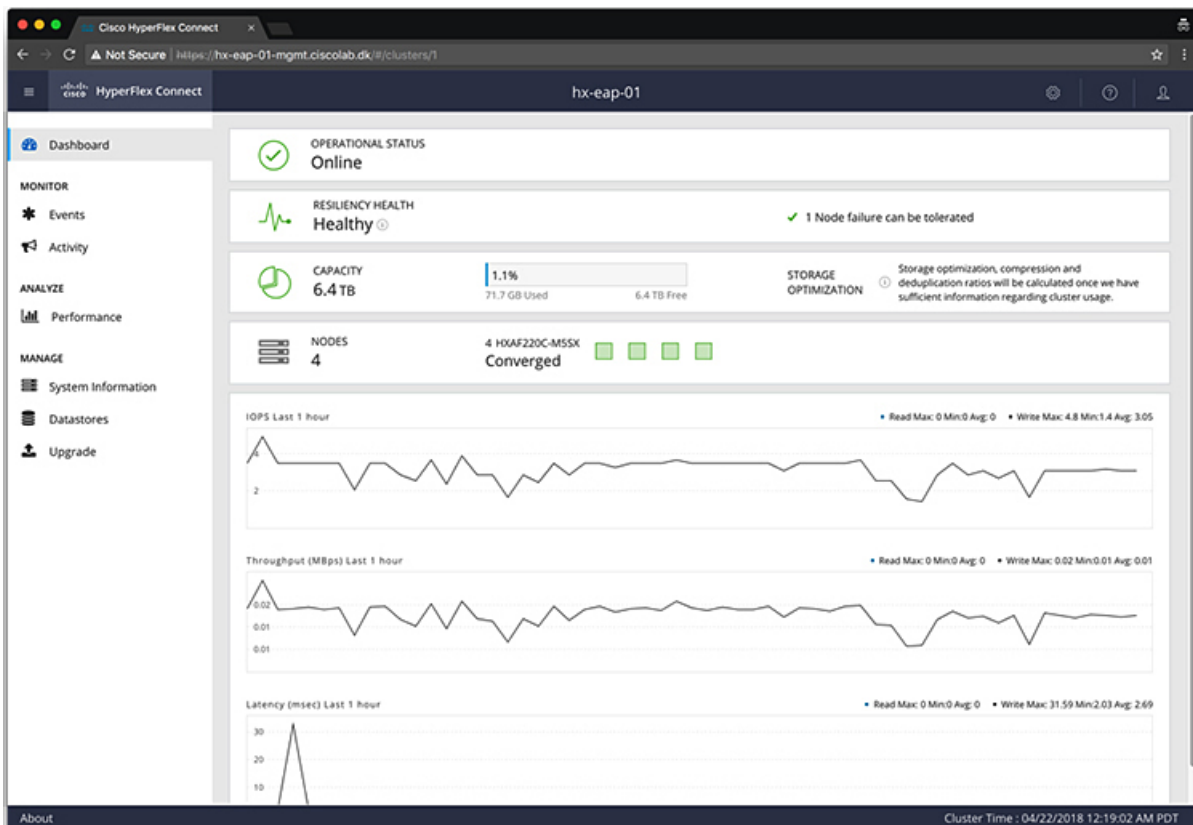
ステップ 1 `https://Cluster_IP/` または `https://FQDN` の任意のブラウザから HX Connect UI を起動します。



ステップ 2 次のクレデンシャルでログインします。

- ユーザ名—`hxadmin`
- パスワード—クラスタのインストール中に設定されたパスワードを使用します。

ステップ3 [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[データストア(Datastores)] を選択します。



ステップ4 [作業 (Work)] ペインで [スケジュールの作成 (Create Schedule)] をクリックします。

ステップ5 [VSAN の作成 (Create VSAN)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
Datastore Name	データストアの名前を入力します。 Cisco では、データストア名にすべて小文字を使用することを推奨しています。
Size	データストアのサイズを指定します。
ブロック サイズ	データストアのブロックサイズを選択します。

(注) Cisco では、最高のパフォーマンスを保証するために、8K のブロック サイズとできるだけ少ないデータストアを推奨しています。

ライブ移行と VM ネットワークの静的 IP アドレスの設定

各 Hyper-V ノードにログインし、Power Shell で次のコマンドを実行して、ライブ移行と VM ネットワークの静的 IP アドレスを割り当てます。

#	コマンド	目的
1	<code>New-NetIPAddress -ifAlias "vSwitch-hx-livemigration" -IPAddress 192.168.73.21 -PrefixLength 24</code>	静的 IP アドレスをライブ移行ネットワークに割り当てます。
2	<code>New-NetIPAddress -ifAlias "vswitch-hx-vm-network" -IPAddress 192.168.74.21 -PrefixLength 24</code>	静的 IP アドレスを VM ネットワークに割り当てます。

(任意) インストール後の制約付き委任



注目 この手順は、初期インストール時に制約付き委任を設定していない場合にのみ実行する必要があります。この手順は、インストール後ではなく、HX のインストーラを使用して実行することをお勧めします。

制限付き委任により、偽装をきめ細かく制御できます。リモート管理要求が Hyper-V ホストに行われたら、発信者の代理としてストレージにそれらの要求を行う必要があります。そのホストが HX ストレージの CIFS サービス信条について、委任の信頼できる場合許可されます。

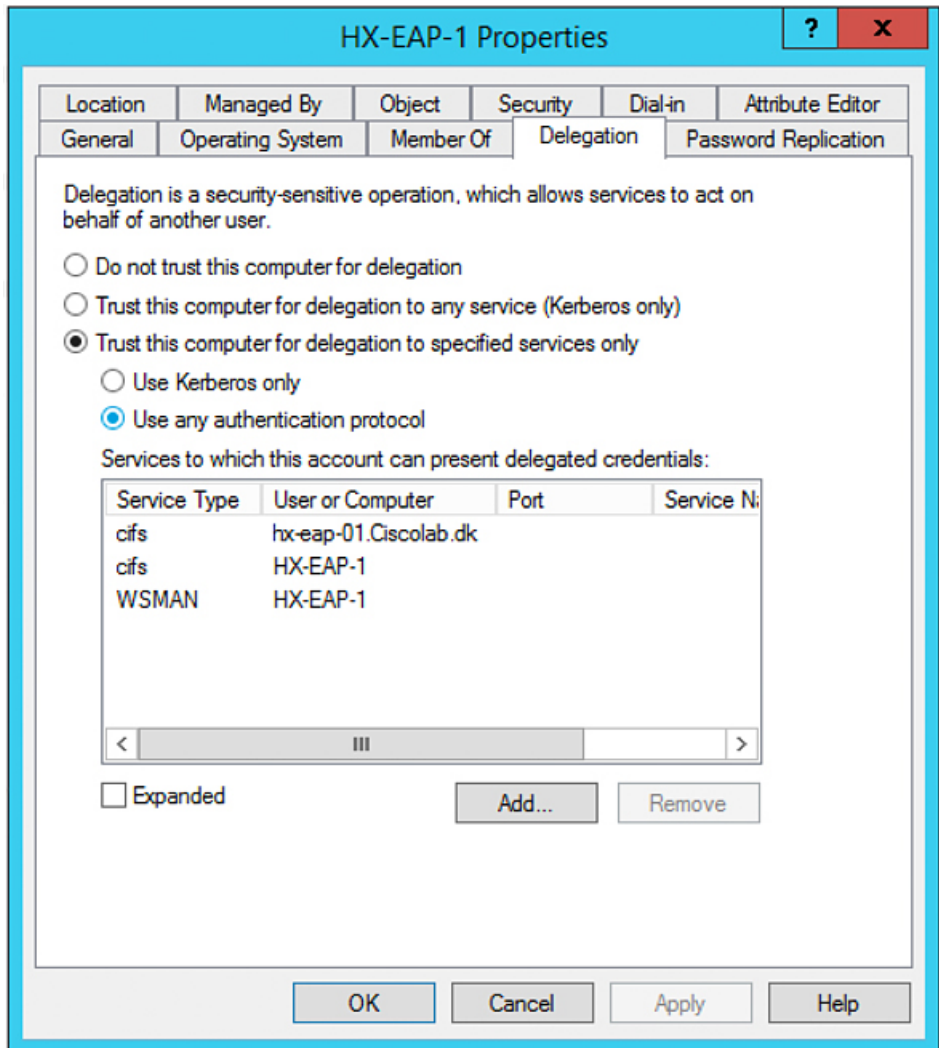
制限付き委任では、セキュリティ設定の [User Account Control: Behavior of the elevation prompt for Administrators in Admin Approval Mode] が [Elevate without Prompting] に設定されている必要があります。これにより、グローバルの AD ポリシーで HX OU のポリシーのオーバーライドできなくなります。

HX クラスタの各 Hyper-V ホストで次の手順を実行して、Windows の [Active Directory ユーザーとコンピュータ (Active Directory Users and Computers)] を使用して設定してください。

手順

- ステップ 1 [開始] をクリックして [管理ツール] をクリックし、[アクティブ ディレクトリ ユーザーおよびコンピュータ] をクリックします。
- ステップ 2 ドメインを展開し、コンピュータ フォルダを展開します。
- ステップ 3 右のウィンドウでコンピュータ名 (たとえば、HX-プロパティ) を右クリックし [プロパティ] をクリックします。
- ステップ 4 [委任] タブをクリックします。
- ステップ 5 [指定されたサービスの委任にのみこのコンピュータを信頼する] を選択します。
- ステップ 6 [任意の認証プロトコルを使用する] が選択されていることを確認します。

ステップ7 [Add] をクリックします。[Add Services (サービスの追加)] ダイアログボックスで、[Users or Computers (ユーザーまたはコンピュータ)] をクリックし、サービスタイプの名前を参照するか入力します (CIFS など)。[OK] をクリックします。次の図は、例として使用できます。



ステップ8 すべてのノードに対してこれらの手順を繰り返します。

ローカルのデフォルトパスを設定する

VMのデフォルトローカルパスを設定して、VMがHXクラスタデータストアに確実に格納されるようにします。

PowerShellで次のコマンドを実行してください。

```
$Creds = Get-Credential -Message "User Credentials" -UserName <<current logon username>>
$hosts = ("hostname1","hostname2","hostname3","hostname4")
Invoke-Command -ComputerName $hosts -Credential $Creds -ScriptBlock {Set-VMHost
```

```
-VirtualHardDiskPath
"\HX-EAP-01.ciscolab.dk\DS1_8K" -VirtualMachinePath "\HX-EAP-01.ciscolab.dk\DS1_8K"}
```



(注) ユーザ名は、ドメイン管理者アカウントまたはHX サービスアカウントのいずれかにする必要があります。Hyper-V ホストのローカル管理者は機能しません。



(注) 環境に適合するように変数を変更することを忘れないでください。

ファイル共有ウィットネスの構成

Microsoft のベストプラクティスとして、クォーラムウィットネスデータストアを構成することを確認してください。フェールオーバー クラスタマネージャ (FCM) を使用してファイル共有ウィットネス機能を構成するには、次の手順を実行します。ファイル共有監視は、ネットワーク上のノードで障害が発生した場合に、フェールオーバークラスタのハイアベイラビリティを保証します。具体的には、フェールオーバークラスタ クォーラムを維持するためにファイル共有監視が必要になります。これは、ネットワーク内のパーティションとノードのサブセットが相互に通信できない場合に発生する可能性のあるスプリットブレインシナリオを回避するように設計されています。詳細については、「[クラスタとプールのクォーラムについて](#)」を参照してください。



(注) HX クラスタでは、ストレージは可用性が高く、ホストがストレージにアクセスできなくなるように設計されています。1個のホストがデータストアへの書き込みを停止した場合、Microsoft のストレージ復元動作が開始されます。ホストは、デフォルトで 30 分間、ストレージとの接続確立を繰り返し再試行します。この間、ユーザー VM は一時停止する可能性があります。30 分後に接続できない場合、VM は「停止」状態に移行します。

次の手順では、Microsoft Windows 2016 のファイル共有監視を設定する方法について説明します。Microsoft Windows 2019 を導入する場合は、HyperFlex 共有または他のファイル共有を監視として使用しないでください。Microsoft は、今後のパッチリリースで解決される Windows 2019 の不具合を特定しました。それまで、監視を行わずに Microsoft Windows 2019 フェールオーバークラスタを設定する必要があります。



- (注)
- ファイル共有監視として Microsoft Windows 2019 および計画を使用してファイル共有 (HX 共有を含む) を使用する場合は、設定する前に <https://support.microsoft.com/en-us/help/4497934> パッチをインストールする必要があります。
 - ファイル共有をクォーラム監視として使用しない場合は、Microsoft Windows 2019 で説明されている他のクォーラム方式を使用できます。

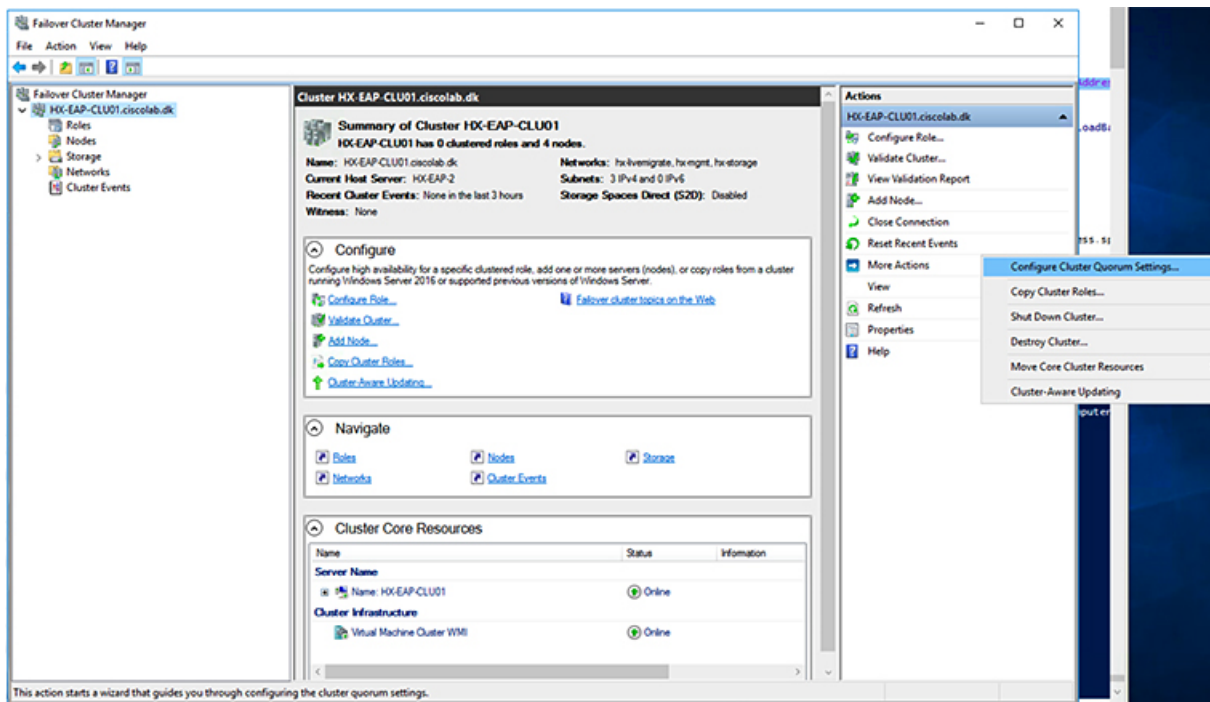
始める前に

Microsoft は、2019 年 11 月 12 日に Windows 2019 に適用されるセキュリティパッチをリリースしました。Windows 2019 を実行している場合、次の手順でファイル共有監視を設定する前に、パス レベルでパッチを使用して Hyper-V ホストをアップグレードします。詳細については、Microsoft の記事「[November 12, 2019: KB4523205 \(OS Build 17763.864\)](#)」を参照してください。

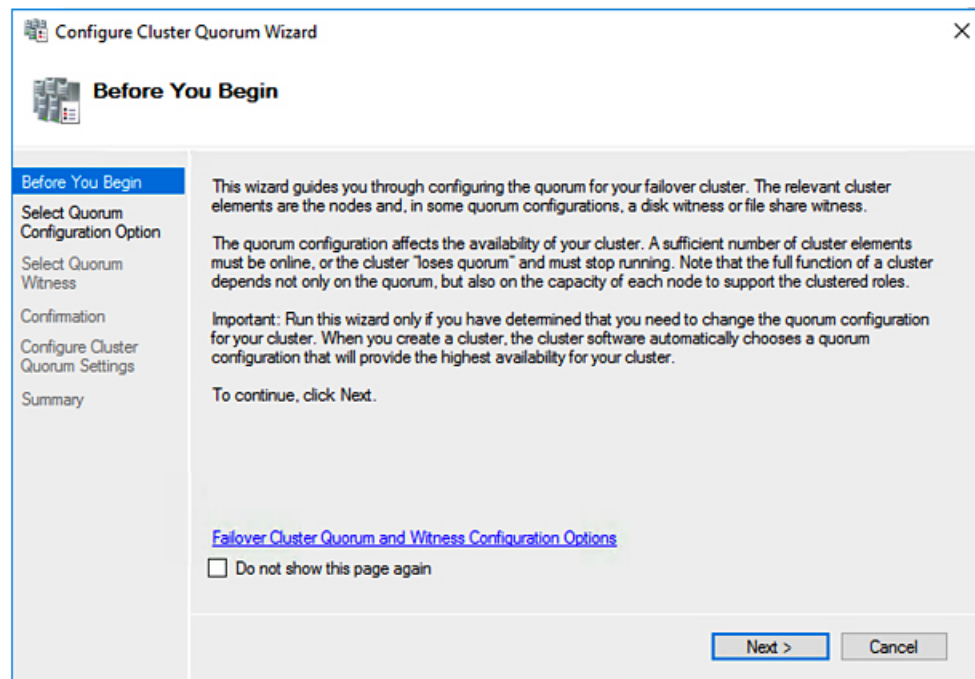
手順

ステップ 1 FCM を起動します。

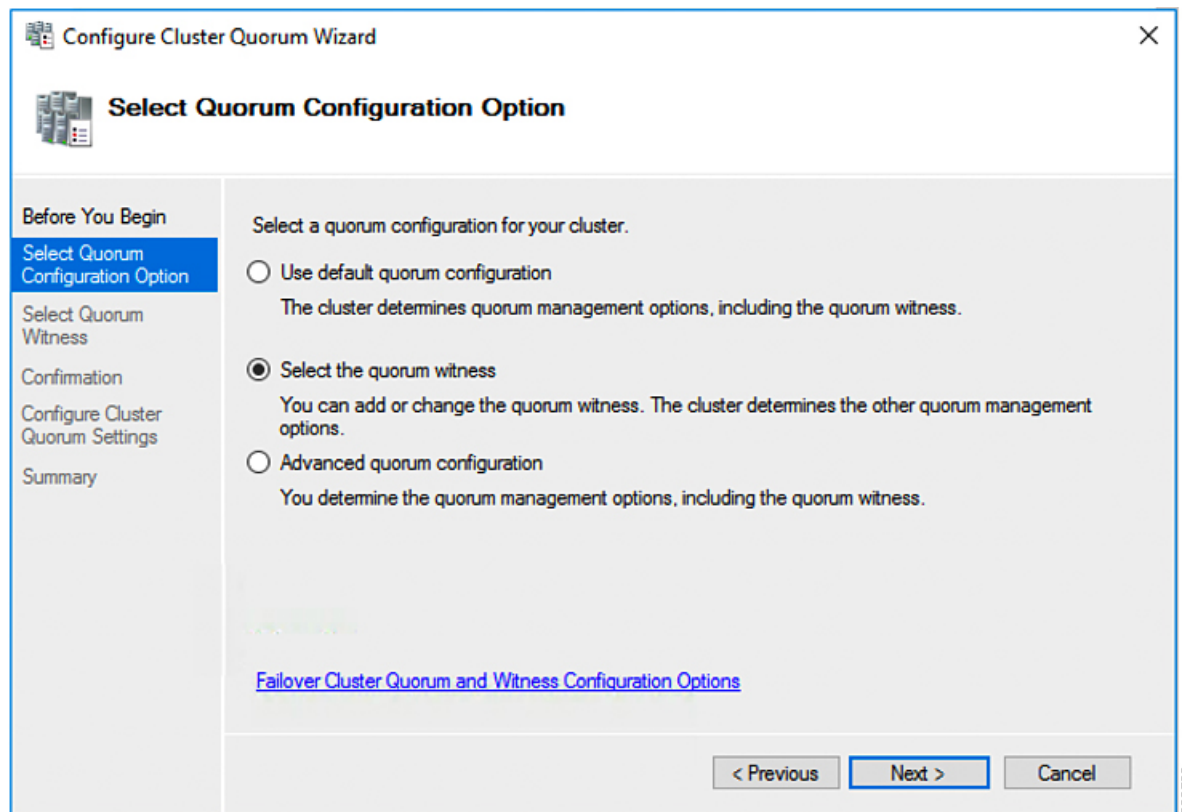
ステップ 2 ナビゲーション ペインで、クラスタを選択します。次に、[Actions] ウィンドウで、[More Actions] > [Configure Cluster Quorum Settings...] を選択します。



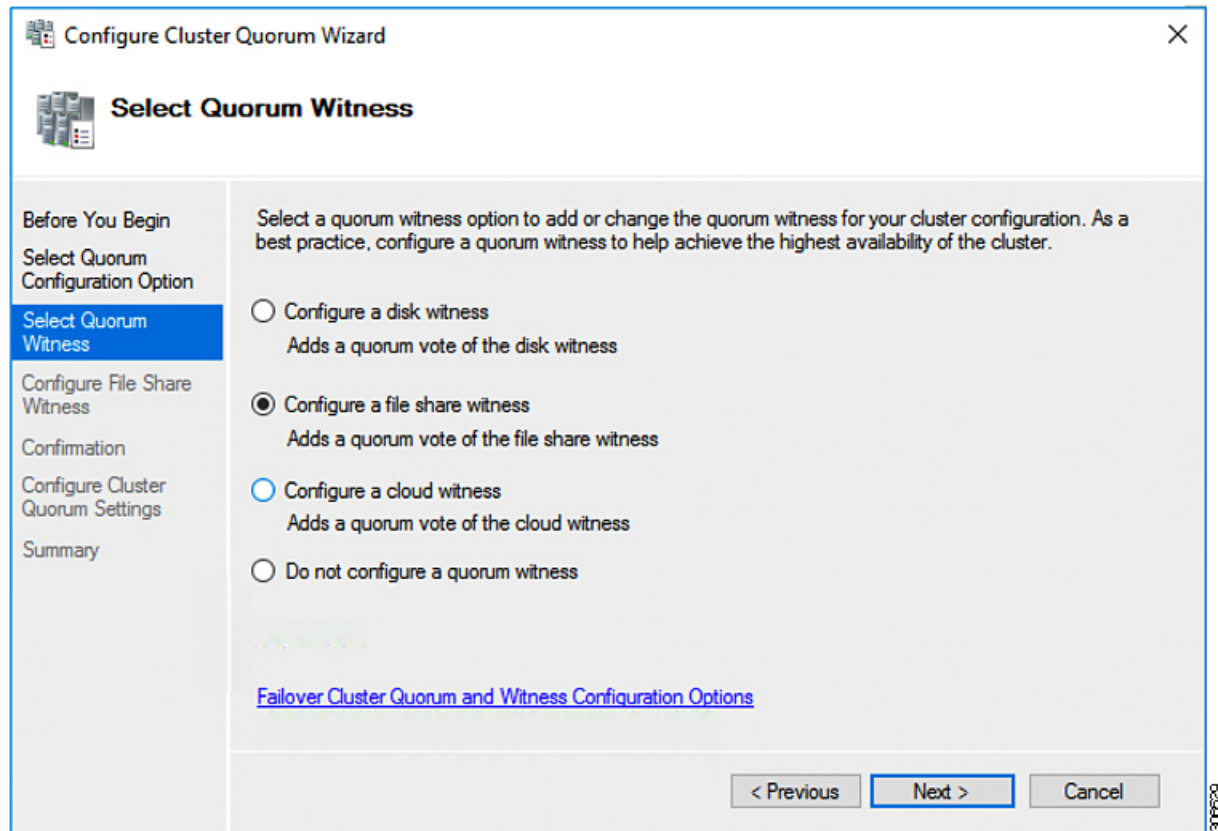
ステップ 3 [クラスタ クォーラムの設定 (Configure Cluster Quorum)] ウィザードが起動します。[次へ (Next)] をクリックします。



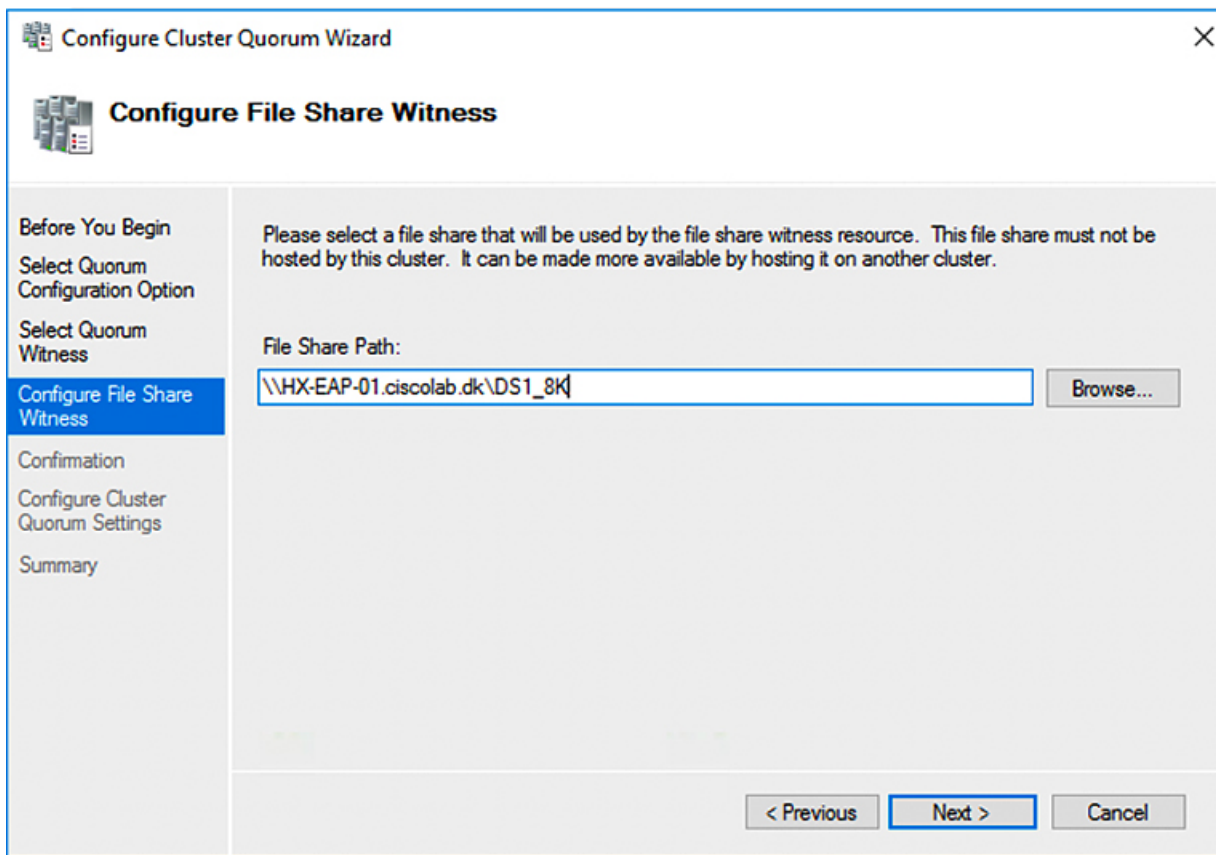
ステップ 4 [クォーラム設定オプションの選択 (Select Quorum Configuration Option)] 画面で、[クォーラム ウィットネスを選択する (Select the quorum witness)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。



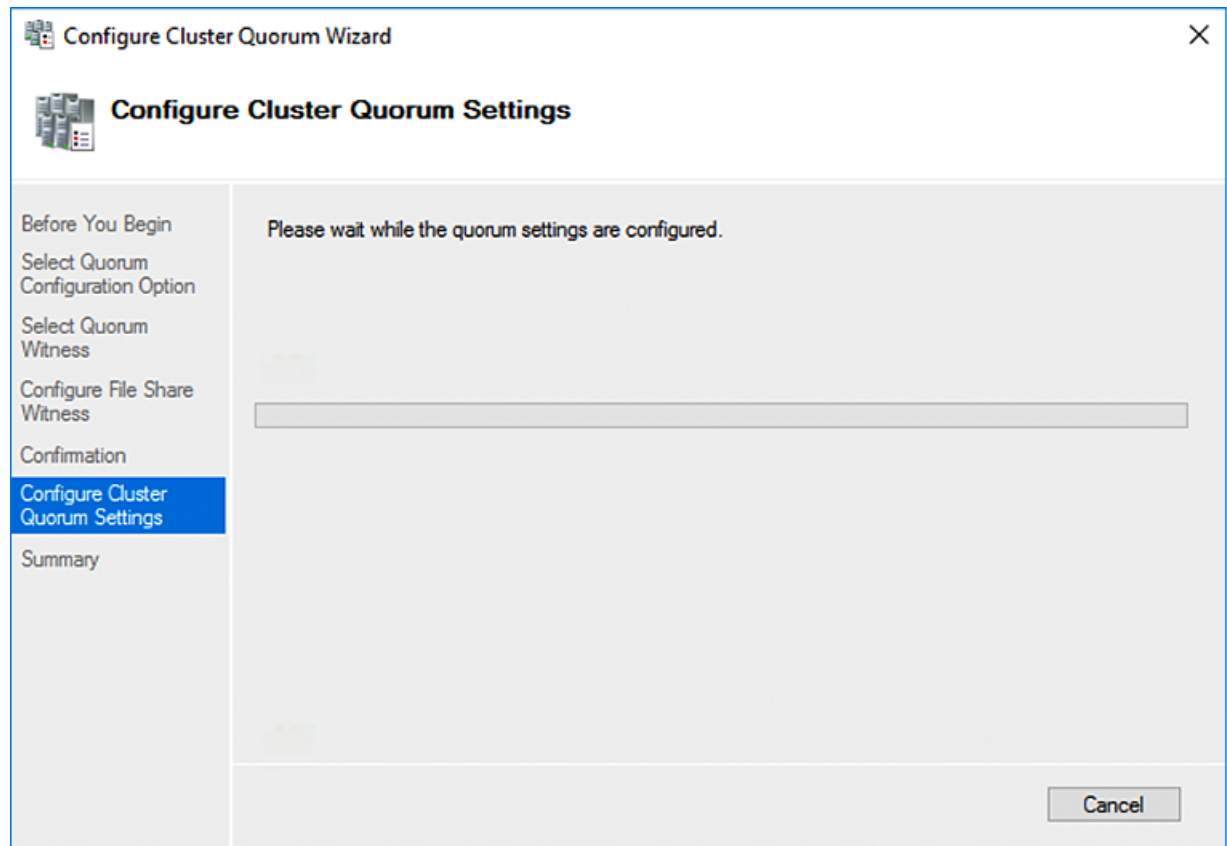
ステップ5 [クォーラム ウィットネスの選択 (Select Quorum Witness)] 画面で、[ファイル共有ウィットネスの構成 (Configure a file share witness)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。



ステップ6 [ファイル共有ウィットネスの構成 (Configure File Share Witness)] 画面で、ファイル共有のパスを指定します。[次へ (Next)] をクリックします。



ステップ7 [確認 (Confirmation)] 画面で、[次へ (Next)] をクリックします。



ステップ 8 [概要 (Summary)] 画面で、[完了 (Finish)] をクリックしてウィザードを閉じます。

ステップ 9 または、Windows PowerShell を使用してファイル共有監視を設定することもできます。

- a) タイプ `Set-ClusterQuorum FileShareWitness <ファイル共有監視パス>`
- b) **Set-ClusterQuorum FileShareWitness <ファイル共有ウィットネス パス>**とタイプします
- c) これで、クラスタ用に構成されたファイル共有ウィットネスが表示されます。ファイル共有ウィットネス共有に移動すると、クラスタ用に作成されたフォルダが表示されます。



Hyper-V ホストの Windows バージョンの確認

インストールされている Windows のバージョンを確認するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 管理者または HX サービスの管理者アカウントとして Hyper-V サーバにログインします。

ステップ 2 PowerShell で次のコマンドを実行してください。

```
C:\Users\adminhyperflex> Get-ItemProperty 'HKLM:\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion'
```

ステップ 3 コマンド出力の結果で、インストールされている Windows のバージョンを確認します。

次に、Windows Server 2016 をインストールした場合の出力例を示します。

```
ProductName : Windows Server 2016 Datacenter  
ReleaseId : 1607  
SoftwareType : System  
UBR : 447
```

次に、Windows Server 2019 をインストールした場合の出力例を示します。

```
ProductName : Windows Server 2019 Datacenter  
ReleaseId : 1809  
SoftwareType : System  
UBR : 107
```

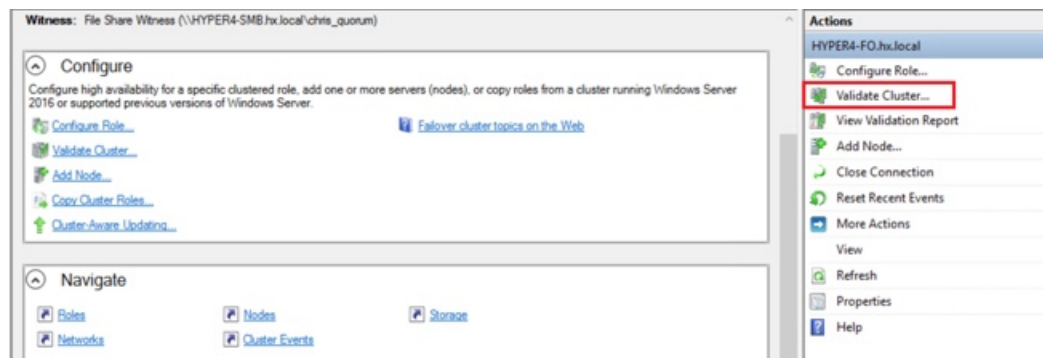
ステップ 4 さらに、次のことを確認します。

- UBR# は 1884 より大きい値にする必要があります。それ以外の場合は、HyperV サーバを最新の更新にアップグレードします。『*Microsoft* ナレッジ ベースの記事: [KB4467691](#)』を参照してください。
- スタンドアロンの HyperV マネージャーを HX ノードの外部で使用している場合は、Hyper-V 管理サーバのバージョン UBR# が 1884 よりも大きい必要があります。バージョンが 1884 以下の場合は、Hyper-V 管理サーバをアップグレードする必要があります。

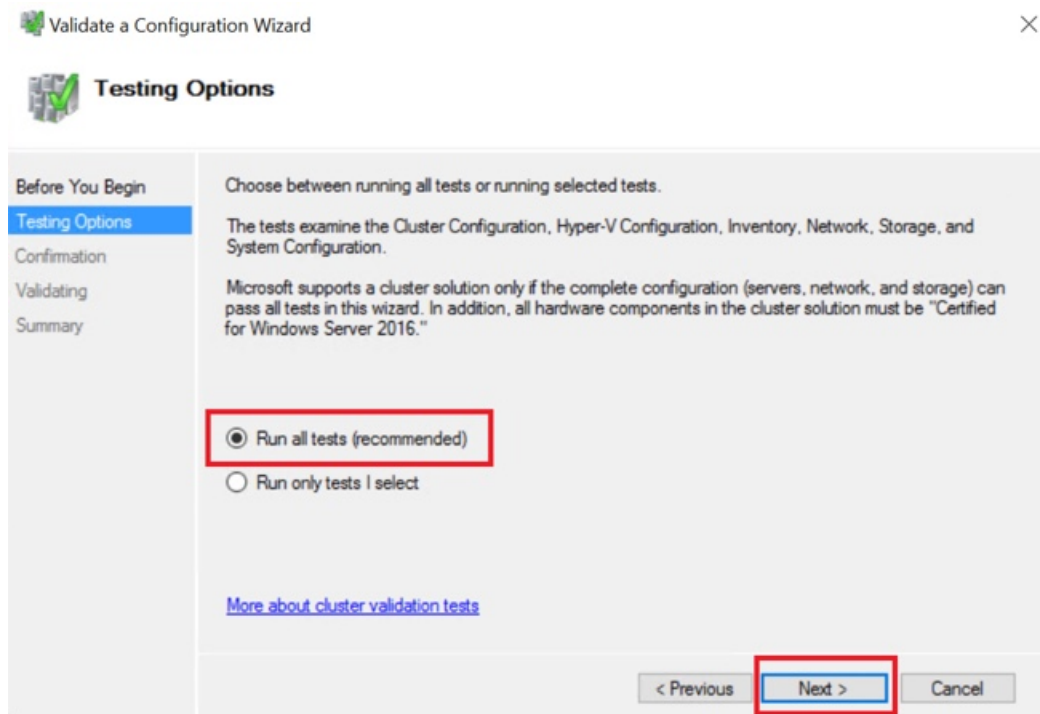
フェールオーバー クラスタ マネージャの検証

手順

ステップ 1 フェールオーバー クラスタ マネージャを開き、[Validate cluster (クラスタの検証)] をクリックして、[Next (次へ)] をクリックします。

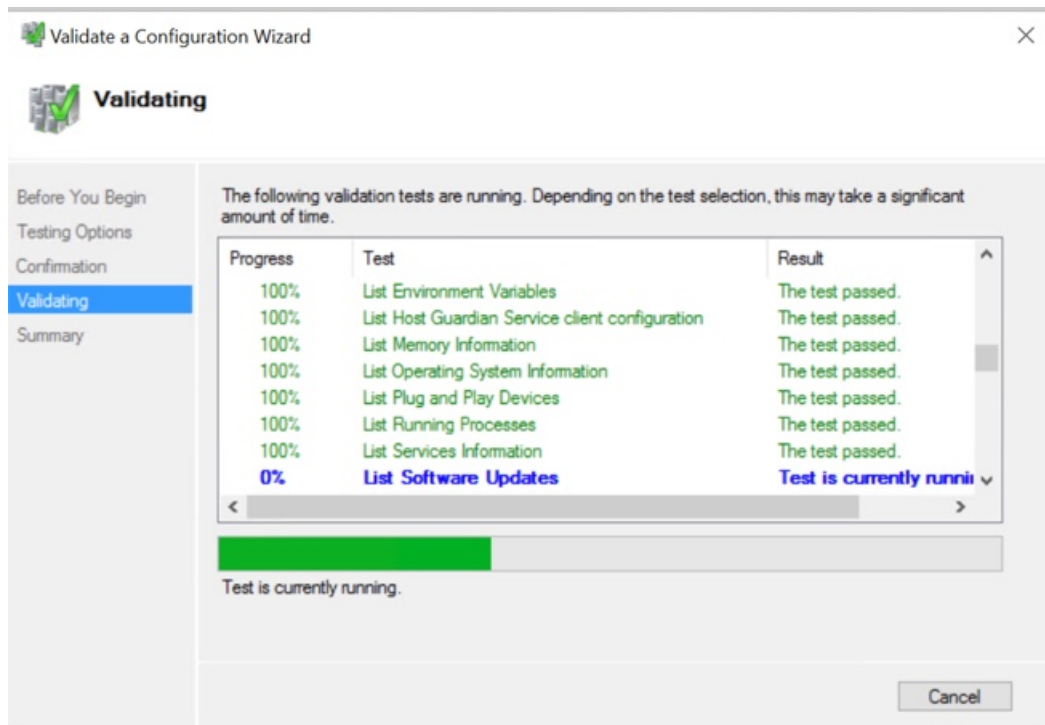


ステップ2 [Run all tests (すべてのテストを実行)] (推奨) を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。



[Next (次へ)] をクリックすると、検証手順が開始されます。

ステップ3 検証に失敗がないことを確認します。検証に失敗した場合は、[View Report (レポートの表示)] をクリックし、[Failed (失敗)] したと表示された結果に対処します。



Hyper-V クラスタへの VM の展開

次のように、Hyper-V クラスタでの VM の導入は、マルチ ステップ プロセスです。

- **インストール** リモート サーバの管理ツール (RSAT) 管理ステーション/ホストで: Hyper-V Manager とサーバ マネージャの機能との Failover Cluster Manager などの管理ツールをインストールする必要があります。詳細については、[管理ステーションまたはホストへの RSAT ツールのインストール \(15 ページ\)](#) を参照してください。
- **VM の管理** : HX クラスタ内のすべての Hyper-V ノードへの接続と新しい VM の作成は、Hyper-V Manager または Failover Cluster Manager を使用して実行できます。詳細については、[Hyper-V Manager による VM の作成 \(20 ページ\)](#) を参照してください。

管理ステーションまたはホストへの RSAT ツールのインストール

RSAT をインストールするには、次の手順を実行します。

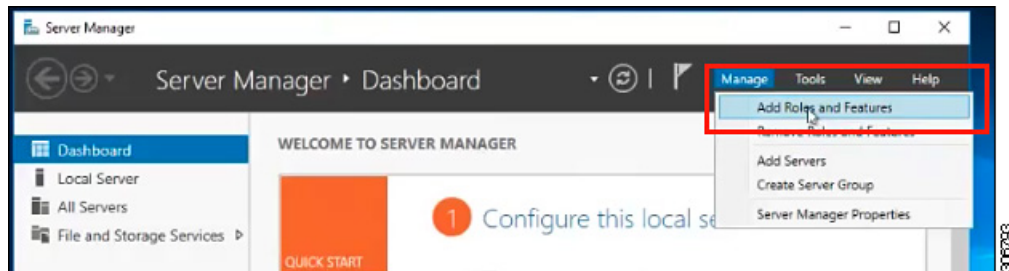
始める前に

RSAT ツールのインストールには、次の必要があります。

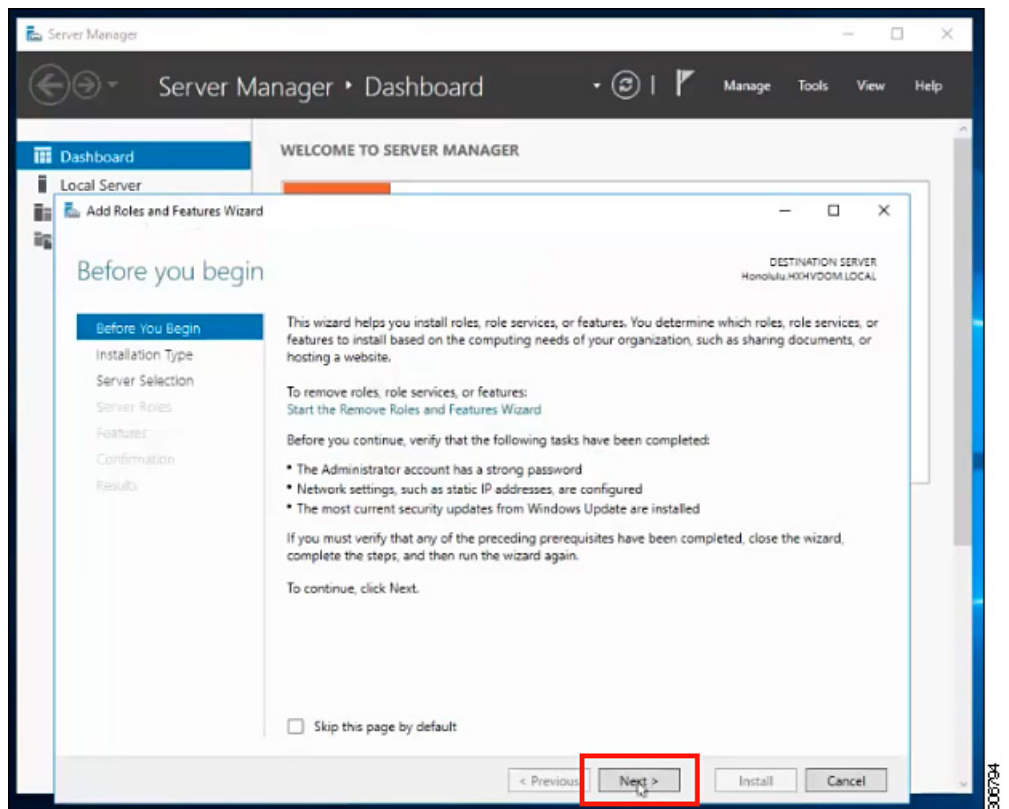
- Hyper-V HX クラスタで VM をインストール、管理、モニターすることができるサーバ。
- Hyper-V Manager、FCM、PowerShell SCVMM などの管理者ツールです。

手順

ステップ 1 サーバマネージャで、[Manage] をクリックして、[Add Roles and Features] を選択します。[Add Roles and Features] ウィザードが表示されます。

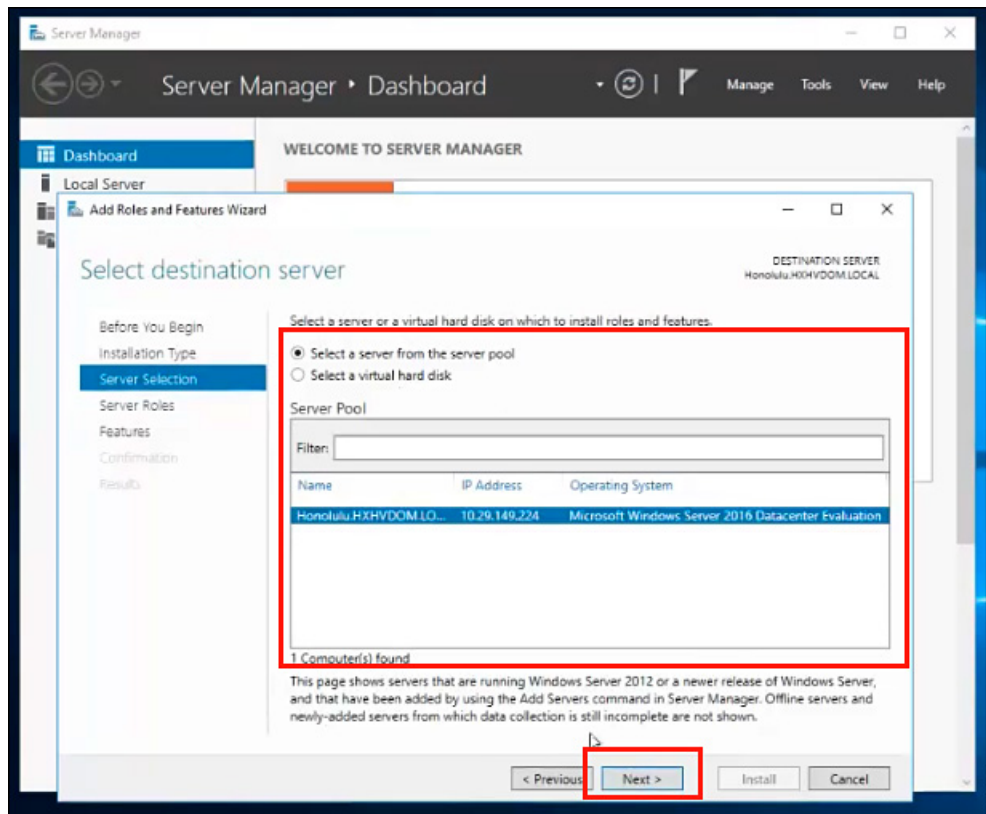


ステップ 2 [始める前に (Before you begin)] ページで、[次へ (Next)] をクリックします。



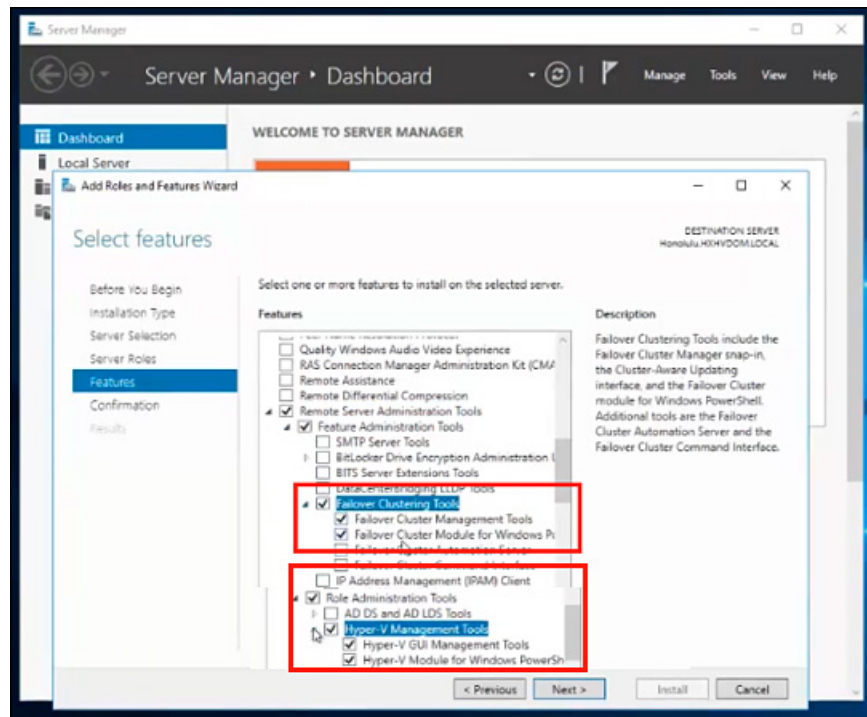
ステップ 3 [インストールタイプの選択 (Select installation type)] ページで、[役割ベースまたは機能ベースのインストール (Role-based or feature-based installation)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [Server Selection] ページで、リストからサーバを選択します。このサーバは、HX クラスタと同じドメインに属します。[次へ (Next)] をクリックします。



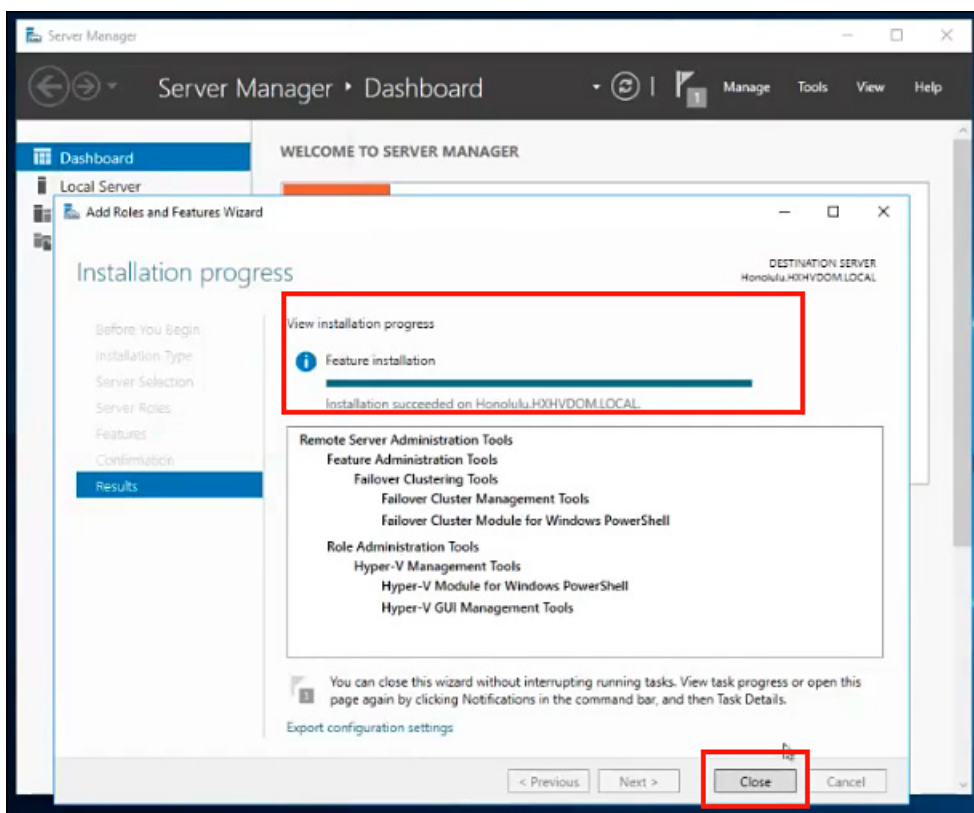
ステップ 5 [Select Roles] ページで、[Next] をクリックします。

ステップ 6 [機能] ページでは、[Remote Server Administration Tools] > [Feature Administration Tools] > [Failover Clustering Tools]、および [Role Administration Tools] > [Hyper-V Management Tools] > [Failover Clustering Tools] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。



ステップ7 [Confirmation] ページで、[Install] をクリックします。[Restart the destination server if required] チェック ボックスはオフのままにします。

ステップ8 [Installation Progress] ページに、インストールの進行状況が表示されます。インストールが完了したら、[Done] をクリックしてウィザードを閉じます。



Hyper-V Manager による VM の管理

Hyper-V ノードへの接続

Hyper-V HX クラスタ内のすべての Hyper-V ノードへの接続には、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Server Manager] ダッシュボードを開き、[Tools] をクリックします。次に、[HYPER-V Manager] をクリックします。[Hyper-V Manager] コンソールが表示されます。
- ステップ 2** 左側のペインで[Hyper-V Manager]を選択し、[Connect to Server...] をクリックしてください。
- ステップ 3** [コンピュータの選択 (Select Computer)] ダイアログボックスで、[別のコンピュータ (Another computer)] を選択し、Hyper-V クラスタに属する Hyper-V ノードの名前（「HXHV1」など）を入力します。[OK] をクリックします。
- ステップ 4** Hyper-V HX クラスタ内の各ノードについて上記の手順をすべて繰り返します。

- (注) 新規インストールの場合は、ストレージコントローラ仮想マシン (StCtlVM) が、[Hyper-V Manager] コンソールの [Virtual Machines] ペインに表示される唯一の仮想マシンです。仮想マシンは、各ノードに追加されると、このペインの下のリストに表示されます。Hyper-V マネージャを使用して VM を作成する方法の詳細については、次を参照してください：[Hyper-V Manager による VM の作成 \(20 ページ\)](#)

Hyper-V Manager による VM の作成

Hyper-V Manager を使用して VM を作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 **Hyper-V Manager** を開きます。
 - ステップ 2 Hyper-V サーバを選択し、右クリックして、[新規 > 仮想マシンを作成] を選択します。**Hyper-V Manager 新規仮想マシン** ウィザードが表示されます。
 - ステップ 3 [始める前に] ページで、[次へ] をクリックします。
 - ステップ 4 [名前とロケーションの指定 (Specify Name and Location)] ページで、仮想マシン設定ファイルの名前を入力します。仮想マシンのロケーションを入力して、[Next] をクリックします。
 - ステップ 5 [Specify Generation] ページで、[Generation 1] または [Generation 2] のいずれかを選択します。
 - ステップ 6 [メモリの割り当て (Assign Memory)] ページで、起動時のメモリの値を 2048 MB に設定します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 7 [ネットワーキング設定] ページで、既存の仮想スイッチのリストから使用する仮想マシンのネットワーク接続を選択します。
 - ステップ 8 [Connect Virtual Hard Disk] パネルで、[Create a Virtual Hard Disk] を選択し、仮想マシンの名前、ロケーション、およびサイズを入力します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 9 [Installation Options] では、デフォルトで選択されている [Install an operating system later] をそのままにしておくことができます。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 10 [概要] ページで、表示されるオプションのリストが正しいことを確認します。[終了 (Finish)] をクリックします。
 - ステップ 11 HYPER-V Manager では、仮想マシンを右クリックし、[Connect] をクリックします。
 - ステップ 12 [Virtual Machine Connection] ウィンドウで、[Action] > [Start] を選択します。
-

Failover Cluster Manager による VM の管理

Failover Cluster Manager による VM の作成

(Hyper-V HX クラスタとともにインストールされている) Windows Failover クラスタに接続し、Failover Cluster Manager を使用して新しい VM を作成するために、以下の手順を終了します。

手順

- ステップ 1 **Failover Cluster Manager** コンソールで、[Actions] ペインで、[Connect to Server...] をクリックします。
- ステップ 2 [Select Cluster] ダイアログボックスでは、Hyper-V HX クラスタに移動するために、[Browse] をクリックします。[OK] をクリックします。
- ステップ 3 左側のペインで、[Roles] > [Virtual Machines...] > 新しい仮想マシン (New Virtual Machine) ...
- ステップ 4 新しい仮想マシンダイアログボックスで検索し、新しい Vm を作成する HYPER-V ノードを選択します。[OK] をクリックします。[新規仮想マシン (New Virtual Machine)] ウィザードが表示されます。
- ステップ 5 [始める前に (Before You Begin)] ページで、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6 [Specify Name and Location] ページで、VM の名前を選択し、VM を保存するロケーションまたはドライブを指定します。[Next] をクリックします。
- ステップ 7 [Specify Generation] ページで、使用する仮想マシンの世代 ([Generation 1] または [Generation 2]) を選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 8 [Assign Memory] ページで、VM に必要なメモリの量を入力します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9 [Connect Virtual Hard Disk] ページで、名前、場所、ハードドライブサイズを入力します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10 [Installation Options] ページで、OS のインストール場所を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 11 [サマリー (Summary)] ページで、選択したオプションを確認し、[完了 (Finish)] をクリックします。
- ステップ 12 新しく作成された VM を右クリックし、[Connect...] をクリックします。[Virtual Machine Connection] ウィンドウで、[Start] を選択します。

(注) デフォルトでは、フェールオーバー クラスタ マネージャは、作成された 4 個のネットワークにデフォルト名を割り当てます。これらのネットワーク名の名前を変更することをお勧めします。

次のタスク

管理パスを介して HX クラスタ境界外からのデータストアアクセス要求のリダイレクトを有効にするには、Hyper-V マネージャ、フェールオーバー クラスタ マネージャ、または SCVMM コンソールを実行している (リモート) マシン上のホスト ファイルに次のエントリを追加します。たとえば、C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts を編集して次を追加します。

```
cluster_mgmt_ip \\smb_namespace_name\datastore_name  
10.10.10.100 \\hxcluster.company.com\ds1
```

SCVMM ホストへのデータ パス アクセスの開始

SCVMM ホストへのデータ パス アクセスを開くには、次の手順を完了します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クラスタ管理 IP アドレスへのセキュアシェル ログインセッションを開始します。	
ステップ 2	次の情報を確認して、クラスタ内のアンサンプル メンバを判別します。	<pre>root@ucs900scvm:~# cat /etc/springpath/storfs.cfg grep crmZKEnsemble crmZKEnsemble=10.107.43.14:2181,10.107.43.15:2181,10.107.43.16:2181</pre> <pre>root@ucs900scvm:~#</pre>
ステップ 3	現在の SSH ログインセッションから、 crmZKEnsemble パラメータに表示されている任意の IP アドレスへの SSH セッションを起動します。	
ステップ 4	追加パラメータを指定せずに次のスクリプトを実行します。	<pre>python/opt/springpath/storfs-hyper/FixSmbAccess.py</pre> <p>スクリプトは、SCVMM IP アドレスを入力するように要求します。</p>
ステップ 5	SCVMM IP アドレスを追加し、SSH セッションを終了します。	

SCVMM への HyperFlex 共有の設定

始める前に

SmbアクセスポイントをHyperFlexクラスタのクラスタ管理IPアドレスに解決するには、VMM管理コンソールを実行しているホスト上の `/etc/hosts` ファイルを編集します。この IP アドレスは通常、Cisco HX 接続の開始を使用します。

The complete path is : C:\Windows\System32\drivers\etc
Open the "hosts" file in the above directory in Notepad or any other text editor and add the following entry in the bottom :

```
<CMIP> <smb_share_namespace>
```

CMIP will be the Cluster Management IP which is usually used to open HX connect UI.

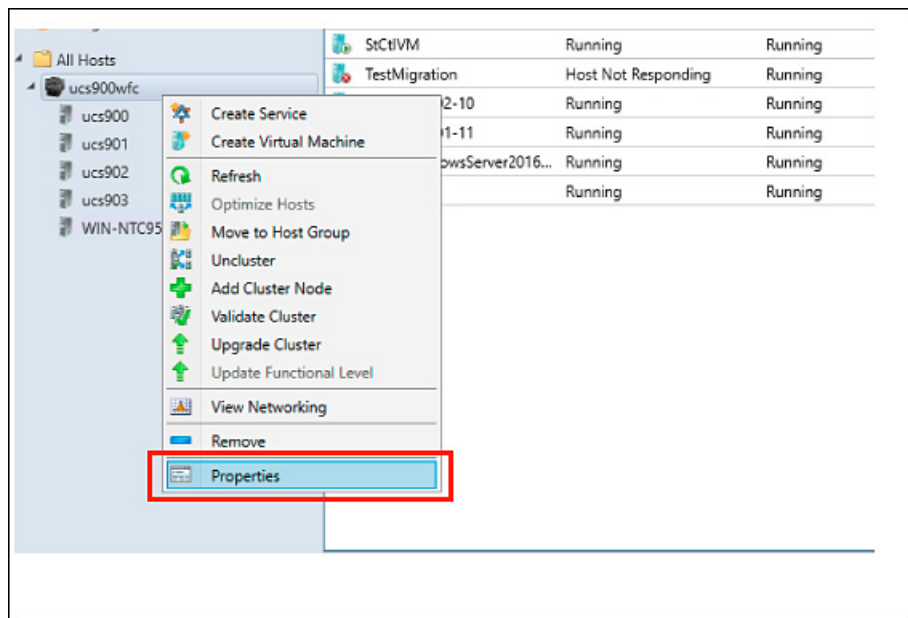
For example,
10.10.10.1 hxhv smb.example.com



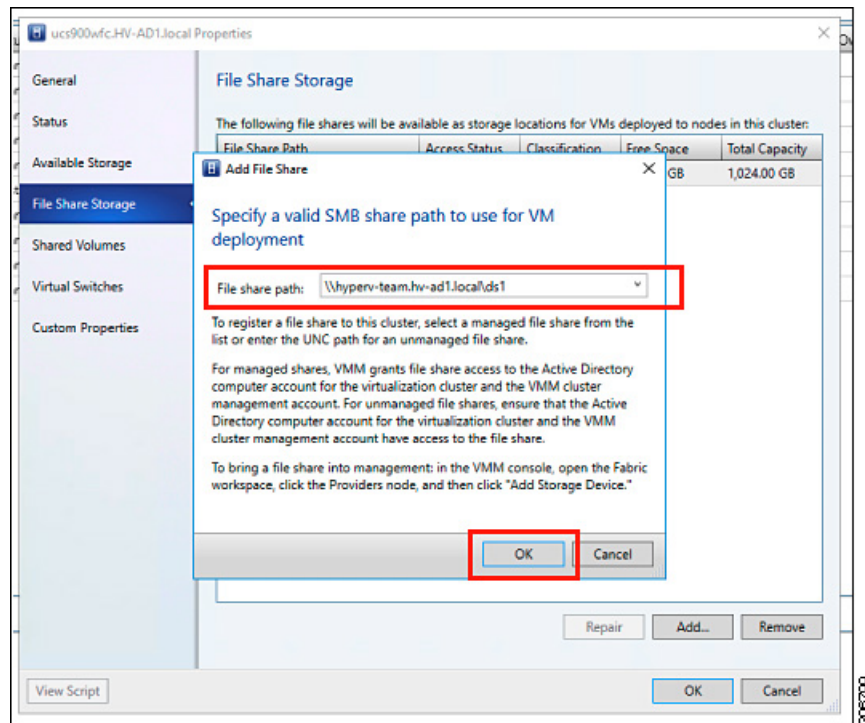
- (注) SCVMM をアカウントとして実行する場合は、Active Directory (AD) 内の対応する HyperFlex 組織単位 (OU) の **hxadmin** (またはフル権限を持つ他のドメイン管理者アカウント) を使用することを推奨します。

手順

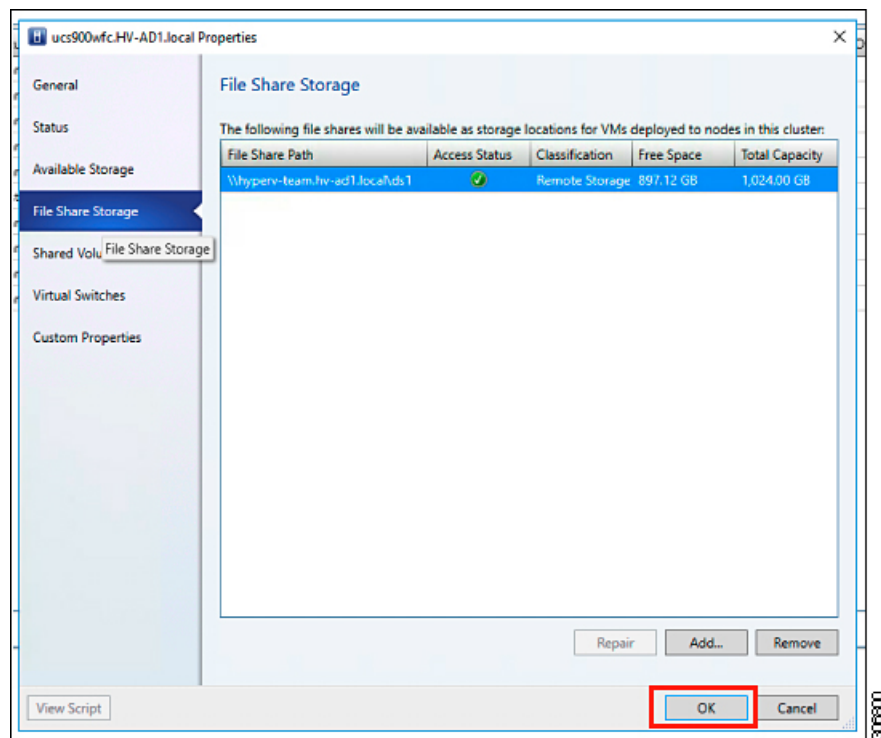
- ステップ 1** System Center - Virtual Machine Manager (VMM) に、クラスタを追加します。
ステップ 2 VMM コンソールで、**[Fabric] > [Server] > [All Hosts]** に移動します。
ステップ 3 クラスタを右クリックし、**[プロパティ (Properties)]** を選択します。



- ステップ 4** **[Properties]** ウィンドウで、**[File Share Storage] > [Add File Storage]** を右クリックします。



ステップ5 マッピングが完了したら、次のスクリーンショットで示すように、共有が追加されます。



ステップ6 **[OK]**をクリックし、VMM を終了します。HyperFlex 共有がマッピングされ、SCVMM を使用してこの共有上で VM を作成できます。

Windows Defender の再有効化

次のコマンドを実行して、Windows Defender を再度有効にします。

PowerShell からの Defender のインストール

```
Install-WindowsFeature -Name Windows-Defender
```

(オプション) **PowerShell からの Defender GUI のインストール**

```
Install-WindowsFeature -Name Windows-Defender-GUI
```

ホスト間の VM の移行

始める前に

スタンドアロンホストと HX Hyper-V ホスト間の VM 移行を実行するには、次の手順を実行します。この手順を実行する前に、次の前提条件を満たすようにしてください。

- 送信元と宛先の Hyper-V ホストが同じ Active Directory にあることを確認します。例として、この手順では **HXHVINFRA2** を Active Directory のスタンドアロン hyper-V ホストとして、「hxhvd01.local」、**HXHV1** を同じ Active Directory (hxhvd01.local) 内の HX Hyper-V ノードとして使用します。
- Failover Cluster Manager で、送信元と宛先の両方の Hyper-V ホストにライブ移行設定を設定します。

手順

ステップ1 **Hyper-V Manager** を開きます。

ステップ2 [navigation (ナビゲーション)] ペインで、**[HXHVINFRA2]** を選択します。

ステップ3 **[Action (アクション)]** ペインで、**[Hyper-V Settings (Hyper-V 設定)]** > **[Live Migrations (ライブ移行)]** をクリックします。

ステップ4 **[Live Migrations (ライブ移行)]** ペインで、**[Enable incoming and outgoing live migrations (有効な着信および発信ライブ移行)]** をオンにします。

ステップ5 **[Incoming live migrations (着信ライブ移行)]** で、**[Use the IP addresses for live migration (ライブ移行に IP アドレスを使用する)]** を選択します。**[Add (追加)]** をクリックし、次に **[OK]** をクリックします。これにより、**[Move (移動)]** ウィザードが開きます。

ステップ6 ウィザードページを使用して、移動、宛先サーバ、およびオプションのタイプを選択します。

ステップ7 **[Summary (サマリー)]** ページで、選択したものを確認し、**[Finish (終了)]** をクリックします。

インストール後の VLAN の追加

インストールの完了後に VLAN を追加することは、VMware 固有のプロセスです。VLAN を作成するには、Cisco UCS Manager の手順に従う必要があります。「[HyperFlex のインストール後の VLAN の追加](#)」を参照してください。

手順

インストールの完了後に VLAN をクラスタに追加するには、次の手順を実行します。

```
PS > Get-VMNetworkAdapterVlan -ManagementOS -VMNetworkAdapterName vswitch-hx-vm-network
```

```
VMName VMNetworkAdapterName Mode VlanList
-----
vswitch-hx-vm-network Untagged
```

```
PS > Get-NetLbfoTeamNic -Name team-hx-vm-network
```

```
Name : team-hx-vm-network
InterfaceDescription : Microsoft Network Adapter Multiplexor Driver #3
Team : team-hx-vm-network
VlanID :
Primary : True
Default : True
TransmitLinkSpeed(Gbps) : 80
ReceiveLinkSpeed(Gbps) : 80
```
